

普通期 稲作情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

1 気象と生育概況

宗像アメダスによると6月1日～7月15日の平均気温は平年より1.1℃高く、日照時間は平年比128%、降水量は平年比54%の高温多照で経過しました。6月18日移植水稻「元気つくし」（試験場の作況調査）では草丈は36%～42%長く、茎数は平年並み～14%多く、葉齢は1.2～1.3葉多く経過しました。

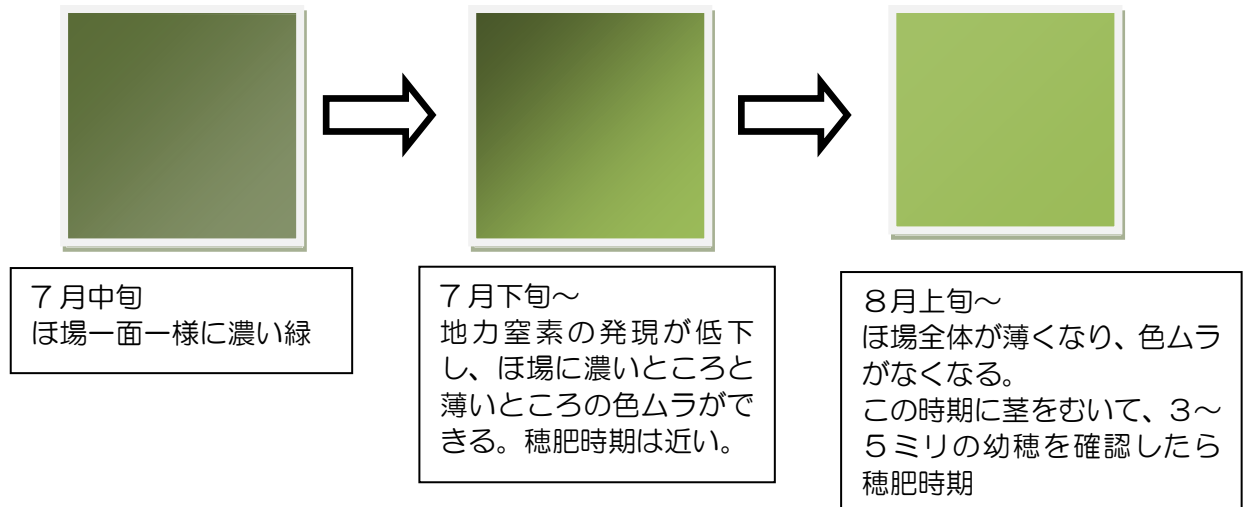
今後は以下の事に留意してほ場の管理を行いましょう。

2 水管理

6月中下旬植えの早生～中晩性品種は、間断かん水を実施し有効茎(20本程度)が確保され次第、中干しを開始する。ジャンボタニシ対策や水不足で田植後浅水～落水管理となったほ場は茎数が少ないため、中干しを弱めに行い茎数を確保しましょう。

3 穂肥

穂肥時期の決め方（6月20日移植のヒノヒカリの例）



品種別出穂期予想と穂肥時期（一般平坦地）

品 種	予想出穂期	穂肥 1 回目	穂肥 2 回目
夢つくし	8 / 8頃 (6 / 10植)	7 / 23頃	
つくしろまん	8 / 20頃 (6 / 20植)	8 / 1頃	
元気つくし	8 / 20頃 (6 / 20植)	8 / 1頃	1回目から7日後
ヒノヒカリ	8 / 28頃 (6 / 20植)	8 / 8頃	
ツクシホマレ	9 / 1頃 (6 / 20植)	8 / 12頃	1回目から7～10日後

○穂肥施用量は、稲作ごよみを参照してください。

4 病害虫防除

本年は、梅雨入りが平年に比べて早かったため、トビイロウンカの飛来が平年に比べて非常に早く、5月10日(昨年は5月18日)に確認されています。過去10か年で最も早くなっています。今後も気象条件によっては圃場内で急激に増加する可能性がありますので、発生状況に十分注意し、必要に応じて防除を行いましょ

【要防除水準】トビイロウンカ：幼虫の合計数

- ・飛来後第1世代(7月中旬～下旬)： 20頭/100株以上
- ・飛来後第2世代(8月中旬～下旬)： 100頭/100株以上

いもち病も山間地の一部の圃場で発生が確認されていますので、今後の発生に注意してください。

補正防除（ウンカ類、コブノメイガ、カメムシ類）

※エクシードフロアブル・エクシード粉剤 DL にはコブノメイガの登録はなし。

薬剤名	防除時期	散布量
キラップジョーカーフロアブル	収穫 14 日前まで	1000 倍
エクシードフロアブル	収穫 7 日前まで	2000 倍
エクシード粉剤 DL	収穫 7 日前まで	3kg/10a

補正防除（葉いもち）

薬剤名	防除時期	散布量
ビーム粉剤 DL	発生初期 (収穫 7 日前まで)	3～4kg/10a
ノンブラスフロアブル	発生初期 (収穫 7 日前まで)	1000倍
コラトップ豆つぶ	葉いもち：初発 10 日前～初発時 穂いもち：出穂 30 日前～5 日前まで	250 g/10a

5 斑点米カメムシ類の耕種的防除について

畦畔や休耕田のイネ科雑草・牧草等が発生源となりますので、出穂2週間前までに草刈りを行いましょ。

(※出穂直前になってから除草すると、雑草に生育していたカメムシを水田に追いやることになるので、逆効果となります)

